



車両センター統廃合・検修業務の集約 乗務員指導・養成業務の集約を提案

新潟支社における運輸車両部門の組織再編について 提案受ける

【提案内容】
○新潟運輸区を拠点とし、長岡運輸区及び新津運輸区から乗務員指導・養成業務を集約する。
○新潟運輸区において、支社企画部門との業務融合・連携や、庄内統括センターとの業務連携を推進していく。
【議論経過】
現行ある乗務員指導の業務をすべて新潟運輸区に集約することで長岡・新津運輸区の指導担当はなくなり、新潟運輸区所属になるとしました。
一方で足ロスが大きいため、庄内統括センターには残すとして、長岡・新津運輸区に常時指導担当がいなくなるのであれば、各区所の訓練会はどうなるのかを質すと支社側は、新潟運輸区で指導、計画、指導作成など行うとして、細かくは検討中であるとしていました。
転入者に必要な教育のためのフォロー体制について質すと、出張、兼務などで対応するとの考えを示しました。
乗務員からの仕事や作業内容の問い合わせなども、やり方については検討

新潟地本は10月3日に団体交渉を行い、新潟支社における運輸車両部門の組織再編についての提案を受けました。
首都圏本部 東北本部に属さない第3の極である新潟支社として、乗務員区所や車両区所での仕事の垣根を越えた柔軟な働き方を実現し、企画業務の移管や業務の融合などを推進するためとして、乗務員区所と車両区所の組織再編を行うとしました。
【提案内容】
○新潟運輸区を拠点とし、長岡運輸区及び新津運輸区から乗務員指導・養成業務を集約する。
○新潟運輸区において、支社企画部門との業務融合・連携や、庄内統括センターとの業務連携を推進していく。
【議論経過】
現行ある乗務員指導の業務をすべて新潟運輸区に集約することで長岡・新津運輸区の指導担当はなくなり、新潟運輸区所属になるとしました。
一方で足ロスが大きいため、庄内統括センターには残すとして、長岡・新津運輸区に常時指導担当がいなくなるのであれば、各区所の訓練会はどうなるのかを質すと支社側は、新潟運輸区で指導、計画、指導作成など行うとして、細かくは検討中であるとしていました。
転入者に必要な教育のためのフォロー体制について質すと、出張、兼務などで対応するとの考えを示しました。
乗務員からの仕事や作業内容の問い合わせなども、やり方については検討



【提案内容】
○新潟車両センターを拠点とし、他区所から車両メンテナンス業務及び内勤業務を集約する。
○長岡車両センターを廃止し、PRC業務を長岡営業統括センターへ移管するとともに、その他業務を新潟車両センター等へ集約する。
○新潟運輸区の検修部門を乗務員部門から分離し、新潟車両センターへ業務を集約したうえで、その派出所とする。
○新潟車両センターにおいて、支社企画部門との業務融合・連携を推進していく。
【議論経過】
長岡車両センター廃止に伴い、PRCは長岡営業統括センター、乗務員乗泊関係は長岡運輸区、車両関係は新潟車両センターが管理を行うとの考えを示しました。
NTSを残す理由を質すと支社側は、契約部分に基づくとして、急遽の故障対応も契約に基づき新潟車両センターが発注等を行うとしました。
新潟運輸区の資材部門はどうなるのか質すと、全体の物品管理は新潟車両センター、棚卸など現地に行かなければ出来ないものは新潟の派出所で行うとし、資材が必要となるものなどルールはこれから検討としました。
新潟車両センターは留置車両が増えるのかを質すと、所属は新潟であるが、実際の管理、留置など

中としながらも、基本は新潟運輸区であり、チームス、タブレット電話、当直に話をするなど、何かしらの形で対応するとし、乗務員養成の考え方を質すと、新潟運輸区をDC転換のみとするとした上で、DC転換は新潟を基本として、必要により長岡で養成があれば派遣等もあるとしました。
新潟運輸区との業務融合により運輸部企画課の仕事が現場に来る事で、支社には何も残らないのか質すと、乗務員指導業務を新潟運輸区に移管するであり、企画課全てではないとしました。
その上で本社繋ぎ案件があり兼務などで対応するが、実施した中で出来ない場合は検討するとしていました。

【提案内容】
○新潟車両センターを拠点とし、他区所から車両メンテナンス業務及び内勤業務を集約する。
○長岡車両センターを廃止し、PRC業務を長岡営業統括センターへ移管するとともに、その他業務を新潟車両センター等へ集約する。
○新潟運輸区の検修部門を乗務員部門から分離し、新潟車両センターへ業務を集約したうえで、その派出所とする。
○新潟車両センターにおいて、支社企画部門との業務融合・連携を推進していく。
【議論経過】
長岡車両センター廃止に伴い、PRCは長岡営業統括センター、乗務員乗泊関係は長岡運輸区、車両関係は新潟車両センターが管理を行うとの考えを示しました。
NTSを残す理由を質すと支社側は、契約部分に基づくとして、急遽の故障対応も契約に基づき新潟車両センターが発注等を行うとしました。
新潟運輸区の資材部門はどうなるのか質すと、全体の物品管理は新潟車両センター、棚卸など現地に行かなければ出来ないものは新潟の派出所で行うとし、資材が必要となるものなどルールはこれから検討としました。
新潟車両センターは留置車両が増えるのかを質すと、所属は新潟であるが、実際の管理、留置など

は検討中としました。その上で、新潟車両センターとして一つの組織とすることもありました。
組織再編を行わなければならない現状の課題を質すと支社側は、乗務員関係については各運輸区にローカルルールがあり、様々やり方あって時間が掛かっているとして、一元化、統一指導で今後異動があっても異動先でのルールを新たに学ぶことは無くなることとしました。



上中越支部第12回定期大会
労働組合の存在意義を主張し
組合員と家族の安心・安定を勝ち取っていきましょう！

【組織再編を希望するよう求める】
車両部門に関しては、新潟、長岡、新津でそれぞれ違う車種を専門にやっているが、色々携わることで車両技術向上と一元化が図れるとしました。
交渉団は、2022年度未予定のダイヤ改正と今実施の実施日が重なっていることに懸念を示しました。

上中越支部は9月3日に、ながおか市民協働センターにおいて第12回定期大会を開催しました。傍聴者を含め総勢33名の組合員が集まり、より感染防止を徹底した中での大会となりました。
新型コロナウイルスの感染拡大が続く中、運動を停滞することなく労働条件・労働環境の向上に向けて取り組んできたこれまでの成果と課題を共有し、星議長のスムーズな議事進行により、向こう1年の運動方針を満場一致で確立しました。
5名の代議員から発言をいただきました。ジョブローテーションの異動による課題、エルダー社員へのタブレット配布の問題、労働組合の必要性や運動面のあり方、職場での問題や課題、労働組合と組織拡大の必要性など、今後の支

は検討中としました。その上で、新潟車両センターとして一つの組織とすることもありました。
組織再編を行わなければならない現状の課題を質すと支社側は、乗務員関係については各運輸区にローカルルールがあり、様々やり方あって時間が掛かっているとして、一元化、統一指導で今後異動があっても異動先でのルールを新たに学ぶことは無くなることとしました。

支社側は、車両、行路、組織再編、長岡車両センターの廃止もあり、どのタイミングで行うか検討した結果、大変であるがダイヤ改正に合わせて一度に実施する結論となったとしました。
交渉団は、この施策で職場や環境、通勤が変わるなど、大きく生活に関わる部分があるため社員の希望を年一回の面談だけでなく、日々聞いてもらいたいと述べて交渉を終えました。

東日本ユニオンの運動を通じて私たちの明るい未来を実現していくためには、組織拡大が急務な課題です。今後も労働組合の存在意義を主張していくとともに、組合員と家族の安心・安定を勝ち取っていきましょう!!
(上中越支部投稿)

